



# しみんけんきゅうニュース

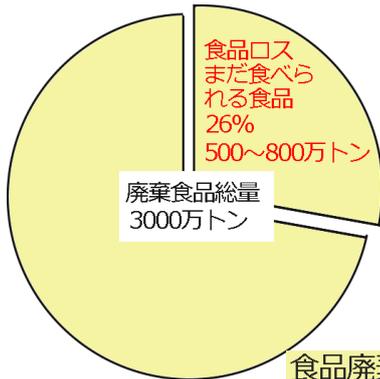
発行:(公財)千里リサイクルプラザ 研究所 〒565-0826 大阪府吹田市千里万博公園4-3  
 TEL 06-6877-5300 FAX 06-6876-0530 <http://www.senri-recycleplaza.or.jp/>

## 第2回市民研究員研修講座開催

### 【目次】

- P2-3 市民とお店 PT からの発信 (研修講座 食品ロス)
- P4 吹田市ごみ減量再資源化推進会議
- P5 第6回環境スクール 8/4 開催
- P6 第7回環境スクール 8/18 開催
- P7 環境問題講演会 9/2 開催
- P8 くるくる夏フェスタ 8/5 開催
- P9 環境スクール9回目閉校式 9/8 開催
- P10 11・12月の予定

9/8公開講座「食品ロスについて考える」

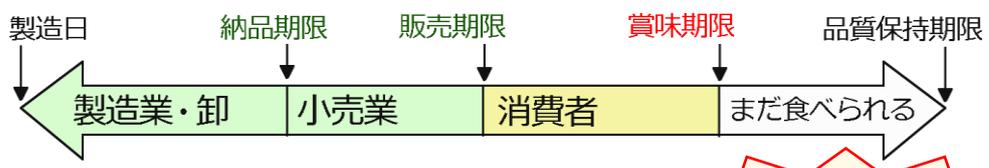
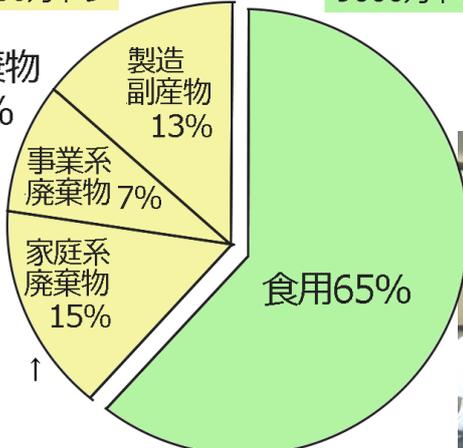


**646万トン!**  
 日本でまだ食べられるのに廃棄される食品ロス

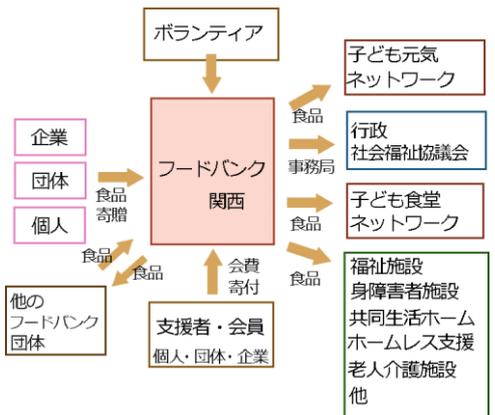
食品廃棄物 約3000万トン      食資源約 9000万トン

**39%**  
 日本の食料自給率

日本における食資源の利用状況  
 平成22年度農林水産省資料



**賞味期限と消費期限  
 業界 1/3 ルール**



今回の研修講座は公開講座とし、  
 フードバンク関西 さんに  
 食品ロスの実情と それを廃棄せずに活用するシステムに関して  
 お話をいただきました。



↑フードバンク 関西の仕組み      ★各資料は当日配布のフードバンク 関西さんの資料を元に作成しました。

# 食品ロスを考える

市民とお店をエコでつなぐPTからの発信 菊田 善雄

私たちのプロジェクトチームは、昨年度から3年計画で「食品ロス」を研究テーマに掲げて活動している。昨年度は、ホームページ等で資料・情報収集活動に努めた。スーパー、コンビニの担当を決めて情報収集を行い、主担の先生を交えて“農林水産省の食品ロス”資料を使い、勉強会を行った。また、DVDのドイツ作品「もったいない」を視聴した。

スーパー、コンビニの「食品ロス対策」については、既に、大企業では取り組みが進んでいて、また範囲も広いので、どの分野を研究するかで討論を繰り返した。その結果、出前講座や環境学習支援を通して市民・児童に「食品ロス」を訴えていくことが私たちの務めだと考え、講座パッケージを制作することにした。

今年度は、制作作業として、市民、お店、学校（特に給食）に対してアンケート調査や聞き取り調査を実施することにした。3か月ごとのスケジュールを組み、アンケートや聞き取り調査項目の作成、実施、集計を行い、大人向け、児童向けのパッケージ内容を考え、また訴え方も考える。そして、最終の3か月で講座パッケージを完成できるようにする。

## I フードバンク関西の視察

「食品ロス」に関する情報収集の一環として、今年度まず取り組んだのは、フードバンク関西様の視察で4月23日に訪問した。

最初に、浅葉めぐみ理事長から活動内容の説明を受けた。フードバンク関西は企業などから寄贈された食品を、支援を必要とする人たちを支える福祉施設や団体に無償で分配する事業をしている。2017年の受け取り団体は、100団体を超えている。さらに、「食のセーフティーネット」として、取り扱う食糧を、行政の福祉関連窓口を通して、緊急食糧支援を必要とする個人や世帯に無償分配している。2017年は7市12町に約500件の支援実績がある。また、「子ども元気ネットワーク」を他の2つのNPOと協働で立ち上げ、貧しい中で子育てに頑張る母子家庭を

対象に物心両面の支援を行っている。さらに、「こども食堂」への食材支援も行っていて、「こども食堂」の普及、継続をサポートしている。



以上の活動内容説明のあと、事前にこちらからメールで提出していた質問事項14項目の回答を懇切丁寧に説明していただいた。

主な質問事項及び回答は

① 食品の搬入・搬出の費用（車、ガソリン代、人件費等）及び家賃・電気代は。

**【回答】**年間約1,000万円強の経費で、特に、家賃・電気代（冷蔵庫5台）・分担費用が大きい。

② 市や国の援助で活動されているのか。行政の関与は無いのか。又、助成などを要請しているのか。

**【回答】**農水省の補助金はあるが、規制がきびしくて使いにくいので使っていない。行政へのお願いは賛助会員の費用のみ。（欧米では1/3の費用負担あり。韓国は国が全面的に負担している。）日本は全然ダメで後れている。

③ 企業からの援助はあるのか。

**【回答】**40社以上から食品の提供を受けている。

④ 2003年の設立以来今日まで、様々な困難や課題があったと思うが、何が大変だったか。

**【回答】**資金の問題（寄付と賛助会員の勧誘）と企業との交渉が大変。そして、人手不足特に専従職員が集まらない。フードバンクに関する法律がない。

⑤ ひと月に、何人くらいが利用されているのか。

**【回答】**1ヶ月の受益者延べ人数は福祉施設、子ども食堂、困窮家庭など約6,000人。

⑥ スタッフは、全てボランティアか。

**【回答】** ボランティアは約 80 人で専従職員はゼロ。

そして、9月8日（土）の市民研究員研修講座に浅葉理事長をお迎えして、「食品ロスについて考える」と題して講演をしていただいた。

年間 20 回以上も講演活動をされている。活動紹介に加え、「食べ物はいのちの糧、命そのもの」であること、家庭からの食品ロスの多さ、先進国の食糧大量廃棄が世界の栄養格差や環境問題に繋がっている事、子ども食堂の存在意義や広がりや参加者に訴える機会としている。



市民研究員の参加者が 20 人弱と少なかつたのが残念であった。

## II 小学校での食育・食品ロス教育について

学校給食の現状等を知りたくて、プラザ事務局の紹介で、千里第二小学校の遠藤栄養教諭を訪問した。事前に質問事項 7 項目を提出していただき、答えていただいた。

主な質問事項及び回答は、

① 吹田で、食育、或いは食品ロスに関する教育が行われている学校とその内容は、

**【回答】** 食品ロスの教育は吹田市 36 校中、20 校は取り組んでいる（社会科、理科、家庭科）が、ビデオをみせても実感として繋がらない。

② 学校では児童の食べ残しの量や、食べ残す食品の種類などの調査、及び処分はどのようにしているのか。

**【回答】** 学校給食での食べ残しの量は、学校の取り組み方や地域差（保護者）に左右される。千里第二小学校では、ご飯、主菜、副菜を毎日軽量していて、ほぼ完食している。地域差はあるがご飯の食べ残しが多い。（三角食べをしていない）

食べ残しは生ごみ（燃焼ごみ）として廃棄している。牛乳の飲み残しは開封されたものは捨てている。学校を休んだ人の分は業者に返品している。

学校給食の食材は、市役所の保健給食室で栄養士さんが購入を手配し全校に配送。全て国産品を使っている。（ただし、調味料は無理）

聞き取り調査の結果、学校給食の現状や日々準備されている人たちの大変さを知ることができた。

たとえば、子どもたちの安心・安全の為に食材は全て国産を使用していることや、食物アレルギーの子どもには、それぞれの対応をしている等。

また、給食の食べ残しについては、千里第二小学校は毎日ほぼ完食されているようだが、学校によって差があるとのことで、学校の取り組み方によっても違うようだ。この問題については、吹田市全体でもっと徹底していくべきだと感じた。

## III C・キッズ・ネットワーク訪問

C・キッズ・ネットワーク様は、消費者教育、環境教育の体験型講座やワークショップのノウハウと教材を持っているので、これからの活動の参考となる何かを得る為に視察見学を行った

代表の大森節子さんから具体的な活動の説明を詳しく伺った。

子どもから高齢者までの対象に合わせたプログラムや教材の開発と、楽しく分かりやすい参加型の出前講座が主な活動で、楽しいイベントの企画運営もしているとのことであった。

特に子どもたちを対象にした講座は、学習支援活動にかなり参考になる部分があると感じたが、勝手に講座の内容を一部取り入れたりするには、個人会員として登録し年会費 ¥ 7,000 を納入し、さらに月 1 回の定例会議に出席する必要があるとのことである。

ただし、教材や参考著書の購入や、有料で講師を派遣してもらえるので、市民研究員研修講座や「くるくるフォーラム」の講師としては適していると思った。

## IV アンケート調査項目の検討

上記 I～III の活動と並行して、市民、お店に対するアンケート項目を検討していて、現在（9 月末）ほぼ出来上がっている。

10 月以降、お店に対して調査出来るようにスケジュール化して実施していく予定である。

また、市民に対しては、出前講座やイベント時に実施できるようにする。

## 第1回 吹田市ごみ減量再資源化推進会議に出席しました

市民とお店をつなぐPT 福田 規子

平成30年7月6日 午後2時～ 吹田市役所において「第1回 吹田市ごみ減量再資源化推進会議」が開催されました。

使い捨てのライフスタイルを見直すきっかけとして、平成21年に発足した「すいたレジ袋削減・マイバッグ推進協議会」は、平成30年4月1日北摂7市3町におけるレジ袋の無料配布中止を趣旨とする「マイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定」の締結という大きな目的を達成したので、平成30年5月30日をもって解散となりました。

私たちは当初から市民団体のメンバーとして会議に参加し、様々なマイバッグキャンペーンに協働してきましたので、レジ袋無料配布中止という結果を出せたことは、長い間の地道な活動が報われたようで感慨深いものがありました。

本会議の立ち上げについて、市は一般廃棄物処理基本計画において、平成32年度に市民1人1日当たりのごみ排出量を17パーセント削減、リサイクル率を24パーセント（平成22年度比）とすることを目標としているので、幅広い目標の達成に向けて、市民、事業者、行政が連携して取り組みを進める必要があることから、前協議会のメンバーを主軸に改めて広く本会議への参加協働を呼び掛けたのです。

### 構成メンバー

学識経験者 三輪 信哉（大阪学院大学教授）  
市民 アジェンダ21すいた  
吹田市消費者団体協議会  
吹田市廃棄物減量等推進員  
地区代表者連絡会  
吹田母子会  
（公財）千里リサイクルプラザ  
市民研究所  
事業者 イオンリテール（株）  
近畿・北陸カンパニー  
（株）いかりスーパーマーケット  
イズミヤ（株）（株）ダイエー

（株）関西スーパーマーケット  
生活協同組合コープこうべ  
（株）平和堂 （株）サンリバー  
（株）ライフコーポレーション  
（株）阪急オアシス  
吹田市商業団体連合会  
吹田商工会議所  
山崎製パン(株)大阪第一工場  
行政 吹田市児童部保育幼稚園室  
吹田市学校教育部保健給食室  
吹田市環境政策室

折しも台風の影響で強風大雨警報が出ており、欠席者も多かったのですが、議事は予定どおり進行されました。会長には三輪信哉教授(欠席)が推薦され、全員異議なしで決定。また、会長職務代理者にはイズミヤ(株)の斎藤委員が選出されて、次第に従い、吹田市のごみの現状及び減量目標についての説明を市職員より受けました。

吹田市のごみの発生量は、ほぼ横ばいとなってはいますが、減量目標を達成するためには、更なるごみの発生抑制や資源化の推進が重要になってくると改めて感じました。また、家庭系燃焼ごみに含まれる再資源化可能物については、まだ食べられるのに捨てられる食品、所謂「食品ロス」の削減や、雑紙の再資源化に取り組まなければならない課題であることも再確認しました。

事業者の方々からも食品ロス削減対策に関しては、フードドライブの実施を拡大する取り組みや廃棄ロス、値下げロスの削減、売れ残りの飼料化や堆肥化等、様々な努力をされている現状が述べられました。

市民、事業者、行政の三者が、再びごみの減量と再資源化、更に食品ロスという大きな課題に向かって動き始めたのです。

## くるくる環境スクール 第6回講座

エコ体験PT 生野 俊介

今回の環境スクール講座は各プロジェクトチームからの活動内容の説明と受講生の体験という形で行われました。8月4日には「エコ体験」、「市民とお店」、「ゴミ物語編集」（チーム名は略称）の3チームが実施しました。（受講生は11名（1名欠席））

事務局からの説明の後、各チームから以下の内容での説明や体験が実施されました。

### （1）エコ体験（40分）

最初に約5分間、学習支援やイベント参加による環境問題の啓発活動を4つのツールを使って実施していることを説明し、その後30分間で「紙すき」体験（牛乳パックからのパルプ取り出しとその後の2枚のハガキ作り）を工房Ⅱで楽しんで貰いました。多くの方が初めての体験で、こんな形でリサイクルができることに感心した様子が伺えました。出来上がったハガキの作品は写真のとおりです。



年季の入った大人の作品、と感じますが、多くの小学生の発想豊かな作品を見ている目からすると“凡人”かな、とも感じてしまいます。（イヤ、失礼！）

最後に一言ずつ体験の感想を頂きましたが、初体験で面白く、かつリサイクルへの気付きがあったように感じました。

### （2）市民とお店PT（40分）

このチームも約5分間で4つの活動内容を説明し、その後小学校の学習支援で実施している「風呂敷の包み方」の体験をしてもらいました。最も基本となる「ひとつ結び」及び「真結び」について紐を使って練習体験した後、風呂敷でのひとつ結びと真結びの体験を悪戦苦闘しながら行ってもらいました。高齢化の所為でしょうか、説明を聞いた直後はできたものが、少し時間が経過すると頭から消えてしまい、や

ないものだとつくづく感じた次第でした。



それでも、最後にはほぼ全員がマスターし、この二つの結び方を会得したことで「レジ袋をもらわずに買い物をすることができる」という最も大切なことも理解できたようでした。

### （3）吹田ゴミ物語編集PT（20分）

このチームは実践型ではなく調査研究型であることから「吹田ゴミ物語」新刊編集の意義や視点、構成事項、運営にあたっての問題点、更には、編集・出版までのロードマップの説明がなされました。2019年2月に出版の目標で進めている、とのまとめでしたが、受講生から全体を通しての唯一の質問事項として、「本冊子を編集後どのように扱うのか？」といった極めて基本的な質問が出されていました。もちろん、冊子を作ることがこのチームの目的ではありますが、広く市民に啓発しなければせっかくの努力が実らないわけで、編集後に一般市民に読んでもらうための方策を研究所全体で考える必要があるのだろう、と筆者は感じました。



（講座風景）

当日の講座の受講生感想をみると、説明内容のこと、体験内容のこと、PTの活動についてのことなど多面的なご意見が出されていました。今後の参考にしていただけたら、と思います。全くの白紙の方々に対し各PTが短時間で活動内容を説明し、理解を得るのは中々難しいものですが、少しでも興味を持ち、参加してみようか、という気持ちになっていただければ大変喜ばしい限りです。皆さん、お待ちしております！

## 第7回 くるくる環境スクール〔市民研究所プロジェクトチームの活動体験〕

ごみ調査・研究PT 下村 敬三

日時 2018年8月18日(土)  
10:00~12:00  
場所 講義室2・リユース食器パーラー  
破碎選別工場

スクール出席者 12名

各PTタイムスケジュール

- ・10:00~10:40 手作りおもちゃと環境PT
- ・10:45~11:10 エコイベントPT
- ・11:10~11:40 ごみ調査・研究PT
- ・11:40~12:00 チームX

### ●手作りおもちゃと環境PT

担当 綿谷さん、仲倉さん、茶園さん

はじめに、綿谷さんから、パワーポイントによる、プロジェクトチームの活動説明があり、吹田市の小学校への環境学習支援、市内公民館ほかの出前講座、くるくるプラザでのイベントなどの時の、体験してもらおう参加者人数、おもちゃの種類、内容、作り方を説明された。原材料となる、「紙パック」の再利用(リサイクル)の重要性も説明された。そして本日のスクールでは、「十字プロペラ」の製作でした。子ども達では、30分以上かかるところ、15分くらいでの完成であり、室内での飛ばしを経験した。

### ●エコイベントPT

担当 大澤さん、山田さん、五十川さん、  
石川さん

環境にやさしいエコイベントの進めを説明され、今活動している「イベントのごみゼロ大作戦」の内容、場所などを説明された。吹田市に限らず、各市へのイベント参加があり、「ごみゼロ」のキャンペーンを幅広く活動していることの説明と、「ごみ」分別などの内容の説明もあった。リユース食器の作業場であるパーラーに移動して、リユース食器の説明を現場でした。日本全国からのリユース食器の活用依頼のことや、食器の種類内容などの説明があり、イベント時の使い捨ての容器がいかにもったいないか、無駄かの説明であり、何回も使う(リ

ユース)の重要性を説明された。いま世界的に、プラスチックを使わない、使い捨てない話が盛んであり、「リユース食器」の重要性を再認識していただいたと思う。



リユース食器の説明

### ●ごみ調査・研究PT 担当 下村

パーラーの出口で、簡単にPTの説明をして「破碎選別工場」の施設見学をした。小学生などに行っているコースで、資源ごみ、大型複雑ゴミ、アルミ缶の選別などのコースで案内した時間の関係で、「平成29年度 吹田のごみ事情」の資料は渡すだけになり、簡単な説明で終わった。



### ●チームX 担当 築山さん

2018年からの新しいチームの、設立、内容などの説明があった。環境スクールの担当が主であり、又、既存のチーム以外で、個人で何か新しい調査・研究の提案・アドバイスを。ご多分に漏れず、くるくるプラザの市民研究員も高齢化で、メンバーも入れ替わりしていく。チームの調査・研究活動は非常に意義の有る活動である事は、吹田市内でも評価の高い所であるが、メンバーがいなくては、それこそもったいない事である。そのようなテーマも真剣に検討すべき時期が来ている。このチームが起爆剤になることを願う。

## 地球はどうぶつでいっぱい

エコイベントPT 田畑 寛子

平成 30 年 9 月 2 日（日）くるくるプラザのマルチホールにて、あべ弘士氏による環境問題講演会「地球はどうぶつでいっぱい」が開催された。あべ氏は、北海道の旭山動物園で 25 年間飼育係として勤務され、廃園の危機にあった動物園の立て直しをされたメンバーのお一人で、現在は絵本作家として活躍されている。



当日は、「くるくる秋フェスタ」が行われており、家族連れの来場者も多く、子どもさんにもわかるようにゆっくりとした口調で旭川のお話から始まった。この日も大阪は猛暑だったが、旭川ではもうストーブを焚いていて、クーラーのある家はほとんどないそうだ。冬にはマイナス 30 度になり、1 晩に 1m の雪が積もっても日常生活に支障はなく、ひと冬の除雪費に市は 5 億円が必要なほどの厳しい自然環境にある、ということだった。

動物園勤務時代の 2 頭の象のお話が面白かった。好奇心旺盛な「なな」とかしこい「あさこ」。あげたい餌を何でも持ってきていいと幼稚園児に言ったところ、ソーセージや身欠きニシンを持ってきた子がいた。残念ながら象は植物だけを食べて、肉、魚、昆虫は食べない。すいかを持ってきた子がいて、「あさこ」は、ゆっくり倒して圧力をかけパカッと割り上手に食べた。納豆を持ってきた子がいて、「なな」は鼻に入れてとれなくなり、飼育係が洗ってあげたそうだ。象にも 1 頭 1 頭個性があるのだ。象の体重は 5 トンあり、1 日 150kg の餌を食べ 80kg の排泄物を出す。動物園には約 150 種 800 頭の動物がいる。それらの排泄物を堆肥場にもっていくと奥から順番にフカフカの土になり、

園内のお花や畑の肥料に使われている。



カバは夜行性で夜に陸上の草を食べる動物で、昼間は動かないのが普通である。また水中で生活していて水の中で排泄するので、どこの動物園も水が濁っている。15 年前にできた天王寺動物園のカバの循環槽の機械が素晴らしく、同時に魚（テラピア、鯉の仲間）を入れている。カバのお尻のうしろで待っていて、食べてくれるので水がきれいだそうだ。是非行って見てみたいと思った。

いよいよ、絵本のお話が始まった。北極のくまの親子を絵本にした「ふたごのしろくま ねえおんぶのまき」「ふたごのしろくま くるくるぼっちのまき」。動物から順に、より早いものが出てくる。この世には光よりも早いものはないと考えられているが、もっと早いものがある。それは想像力で、これは動物にはなく人間だけが持っているものというお話の「このよでいちばんはやいのは」。次は、宮沢賢治の詩を元に 8 年がかりでできた「旭川。」最後の「クマと少年」はアイヌの物語だった。ヒグマは神様と考えられている。春の雪解けに熊狩りを行うのは、神様を迎えに行くことで、子グマを 1~2 才まで村で大事に育て、殺して神の国に帰ってもらうための儀式であるイヨマンテのことが書かれている。いずれも絵本を作ったきっかけや、取材のお話をされたあとに、絵本の読み聞かせをしてくださった。ぼのぼのとした動物と絵本の世界に引き込まれ、ゆったりとした時間を過ごすことができた。その 4 日後、北海道に大きな地震が起きた。被害の大きさに呆然とした。停電が続きストーブのない寒い毎日を送っておられたのだろうか。北海道の人たち、動物たちに穏やかな日常生活が早く戻ってくるよう願わずにはられない。

# くるくる夏フェスタ

無事 盛況に開催されました 事務局 安田 典彦

6月に発生した大阪北部地震により、くるくるプラザでは施設に大きな被害を受けました。そして、壊れたところを修復し安全な施設にするため7月末まで約1か月半の間、閉館することになってしまいました。



マルチホールでのフリーマーケット

「くるくる夏フェスタ」は、開館まもなくのイベントとなるため、お客さんが来てくれるだろうかと心配していました。また、開館できたとはいえ、先の地震で大屋根のガラスが落下したため、すべてのガラスを撤去することになり、4階広場はその足場が設置されフェンスに覆われたままでB棟とマルチホールとは行き来ができず、お客さんに大変不便をかけることになりました。しかし、当日は夏休み中の子ども達を連れた親子がたくさん訪れて大変賑わいのある一日となりました。来場者数は約1000人でした。

布小物や木工小物、ガラス工芸、陶芸、手作りおもちゃ、紙すきというリユースやリサイクルの体験へは合計120人の申し込みがあり、特に手作りおもちゃと環境PTの市民研究員が指導する手作りおもちゃの「水車ボート」は真夏にぴったりのおもちゃで、子ども達はできあがったボートを広場に設置したプールに浮かべて水面を走らせ、歓声をあげていました。また、陶芸の作品は夏休みの自由研究にできるので子ども達も一生懸命作っていました。そして、紙すきで自分の好きな絵柄を付けたはがきをきつと田舎のおじいちゃんやおばあちゃんに送ってくれているのでしょう。いつもたくさん

の人が熱心にはがきを作っています。

120人の内訳は、布小物10人、木工小物13人、ガラス工芸19人、陶芸21人、手作りおもちゃ20人、紙すき37人でした。

また、昨年から参加してくれている大学生のサークルガクロハの廃油キャンドルも人気で、21人が申し込み素敵な作品を作っていました。指導する大学生さんたちも大忙しだったようです。以前には数人ということもあったことを思うと、続けてくれている成果なのではないでしょうか。

フリーマーケットはマルチホールでの開催でした。広場が通り抜けできないので、出店者さんにはA棟の廊下を歩いて荷物運んでもらうことになり、大変不便をかけました。それでも、28の出店者さんがマルチホールに店を並べ、たくさんのお客さんが買い物を楽しんでいました。

回を重ねるごとに定着してきたおもちゃ病院には14名

の方から19個のおもちゃの修理依頼があり、おもちゃドクターの方々の丁寧な修理がとても



水車ボートで遊ぶ子ども達

評判を呼んでいます。壊れたら修理するより新品を買う風潮が強くなってきていますが、大好きだったおもちゃを再び遊べるようにしてもらい、物を大切にする心を育てていく大事な取り組みだと思えます。

はじめに述べた大阪北部地震が休館日の月曜日のしかも早い時刻に起こったので、誰もけがをした人がなく本当によかったです。多くの人が来館している時間帯に起こっていたと想像するとぞっとします。大屋根のガラスはすべて撤去され、そのような心配はなくなりましたが、これからのイベントでは、悪天候の日にはそれに対応できる手立てを考えなくてはならず、今まで通りと言うわけにはいかなかったことは大変残念です。

## 第9回 ぐるぐる環境スクール受講生交流会と閉校式

市民とお店をエコでつなぐPT 打越明美

事務局担当の司会で最終の講座が始まった。事前に受講生に環境問題について、アンケートで関心があると答えた人が80%。

結果

- ① 地球温暖化防止活動に関するPT
- ② エコ体験PT（紙すき）
- ③ 手作りおもちゃと環境PT

「具体的な活動や苦勞するところまた、やりがいを感じていること」を話し合う時間が1クール30分で交代して2クールあります。

アンケートどおり①②③のプロジェクトでは熱心に話を聞いておられました。

私のプロジェクトに来てくれた人は3人。第6回の時にチームの話が出来なかったことを、話しましたが理解していただけたでしょうか。

<質問と意見>

- ・「汚れた容器を回収ボックスに持っていくとリサイクルされる」と今まで思っていた。この方には、容器回収マナーの説明をしました。
- ・リサイクルマナーを守って持って来た人には、お店がエコポイントを出す。そうすれば得たことに繋がるので回収は増えるだろう。正しいごみが増えれば事業者のごみの減量に繋がるが、それは損か？得か？
- ・ふろしきを小さくたたんで持っていれば、便利なものだ。もっと普及すればいいと思う。



11時15分からまとめとして、受講生から各ひとこと。

- ・見学は参考になった。
- ・自分で出来る範囲なるものとは？ 考えさせられた。
- ・自分は環境の加害者にならないよう、自分を考えを直さなくてはいけないと考えた。
- ・地球温暖化を知ることができた。

事務局から「思い出のアルバム」として、第1回（4月7日）から第8回（9月2日）までをスライドでまとめておられ、「男性にもできるエコッキング」「アサヒビール工場見学」では美味しそうな笑顔。木工工房では「木のおもちゃ作り」「里山散策」受講生のみなさんは思い出しながら観ておられました。



最後に所長からそれぞれに受講修了書が授与され閉校式が終わりました。環境問題を身近なところで疑問を持ち、研究する。エコにつながることを、みんなで楽しく活動しましょう。

研究所 11 月の予定

日	曜	催し	時間・場所	備考
1	木			
2	金	万博ごみゼロ第2回事務局会	13:30~ 講義室 I	
3	土	文化の日		
4	日	第8回PT代表者会	13:15~ 講義室 I	
6	火	手作りおもちゃPT定例会	13:00~ プラザ研究所	手作りおもちゃと 環境PT
7	水			
8	木			
9	金	万博ごみゼロ第2回実行委員会 環境学習支援(エコゲーム)	13:30~ 講義室 II 14:15~ 東山田小	エコ体験PT
10	土			
11	日	くるくる大フリマフェスタ	10:00~14:00 広場他	●
12	月	休館日		
		環境学習支援(ふろしきの包み方)	14:30~ 藤白台小	市民とお店PT
		環境学習支援(ビックリ箱)	14:40~ 千里第一小	手作りおもちゃと 環境PT
		環境学習支援(水の話)	14:40~ 高野台小	エコ体験PT
13	火	市民とお店PT定例会	10:00~ プラザ研究室	市民とお店PT
14	水	環境学習支援(万華鏡) 環境学習支援(エコゲーム)	13:30~ 佐井寺小 13:30~ 千里丘北小	手作りおもちゃと 環境PT エコ体験PT
15	木			
16	金			
17	土	第17回万博ごみゼロウォーク エコイベントPT定例会	9:30~ 万博公園周辺道路 13:00~ プラザ研究所	エコイベントPT
18	日			
19	月	休館日		
20	火			
21	水			
21	水			
22	木			
23	金			
24	土			
25	日			
26	月	休館日		
		環境学習支援	14:30~ 藤白台小	エコ体験PT
		環境学習支援(ビックリ箱)	14:45~ 千里第二小	手作りおもちゃと 環境PT
		環境学習支援	14:45~ 豊津第一小	市民とお店PT
		環境学習支援	14:40~ 千里第一小	山崎製パン
27	火			
28	水			
29	木			
30	金	万博ごみゼロ第3回実行委員会	午後1時30分~ 講義室 II	

研究所 12 月の予定

日	曜	催し	時間・場所	備考
1	土			
2	日	くるくるフォーラム PT交流会	13:30~	
3	月	休館日		
4	火			
5	水			
6	木			
7	金	環境学習支援(電気の話)	14:15~ 東山田小	エコ体験PT
8	土	第9回PT代表者会 PT研究実践発表会	10:00~ 講義室 I 13:00~ 講義室 II	
9	日			
10	月	休館日		
		環境学習支援(エコゲーム)	14:40~ 高野台小	エコ体験PT
11	火	環境学習発表会第2回協議会	16:00~ サックス教育委員会 会議室	
12	水	環境学習支援(水の話) 環境学習支援	13:30~ 千里丘北小 13:30~ 佐井寺小	エコ体験PT 手作りおもちゃと 環境PT
13	木			
14	金			
15	土			
16	日	くるくるクリスマス	10:00~14:00 広場他	●
17	月	休館日		
		環境学習支援	14:40~ 千里第一小	エコ体験PT
18	火			
19	水	環境学習支援(買い物)	14:20~ 吹田第一小	
20	木			
21	金			
22	土			
23	日			
24	月	休館日		
25	火			
26	水			
27	木			
28	金			
29	土			
30	日	年末休業		
31	月			

は、資源リサイクルセンター(くるくるプラザ)の休館日です。●は、一般の方も参加できます。詳しくはプラザまで。

※予定は、変更する場合があります。